

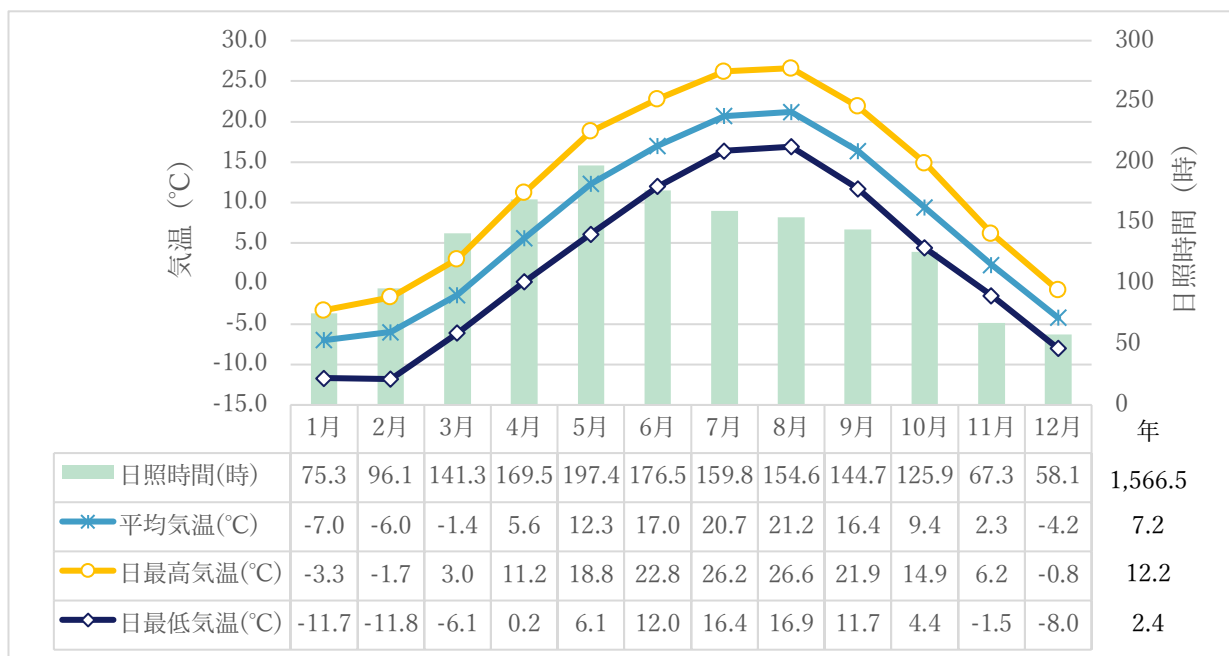
## 第3章 本市の地域特性

### 1 本市の現況

#### (1) 気候

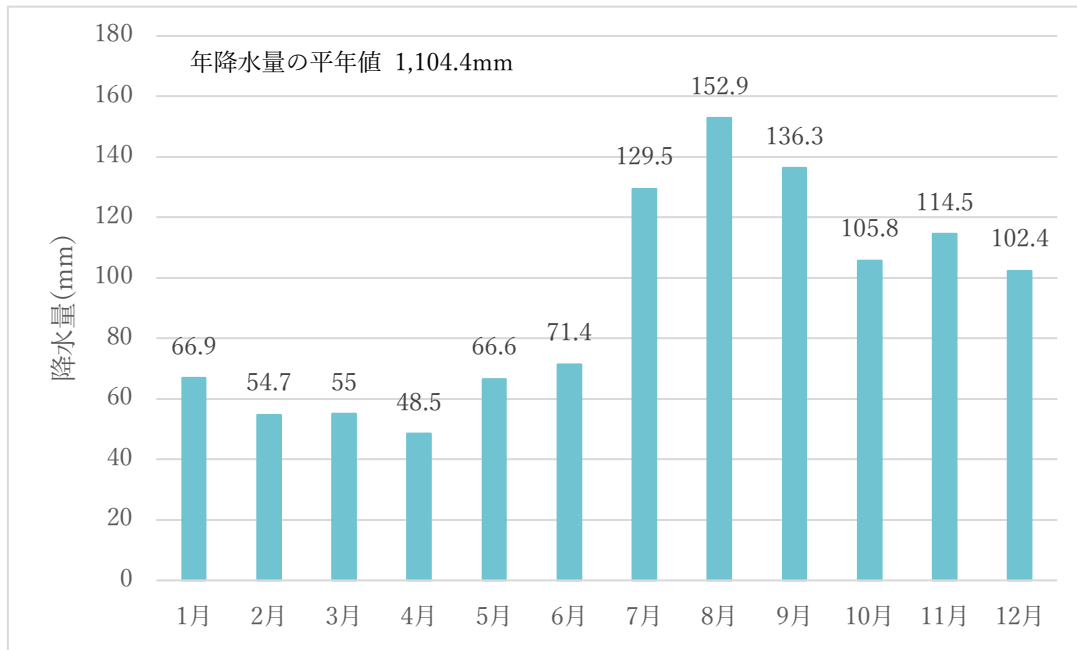
本市は、典型的な内陸型の積雪寒冷気候で、日最高気温の平均が最も高い8月が26.6℃、日最低気温の平均が最も低い2月が氷点下11.7℃となっており、その差は38.4℃に達し、寒暖差が大きい四季の変化に富んだまちです。1日の中でも10℃以上の寒暖差があります。

また、年間の降水量は1,104.4mm、降雪量は557cmであり、盆地と積雪寒冷地の気候を併せ持っていることが特徴です。



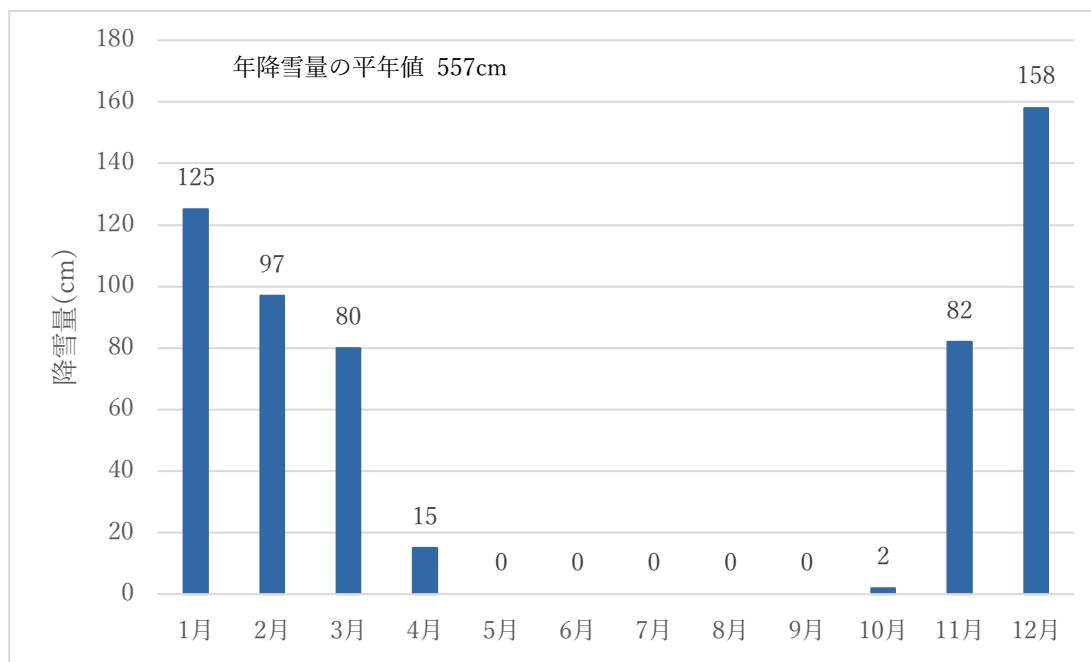
出典：旭川地方気象台データから作成

図8 月別平年値（1991年～2020年の平年値）（日照時間・気温）



出典：旭川地方気象台データから作成

図 9 月別平年値（1991年～2020年の平年値）（降水量）

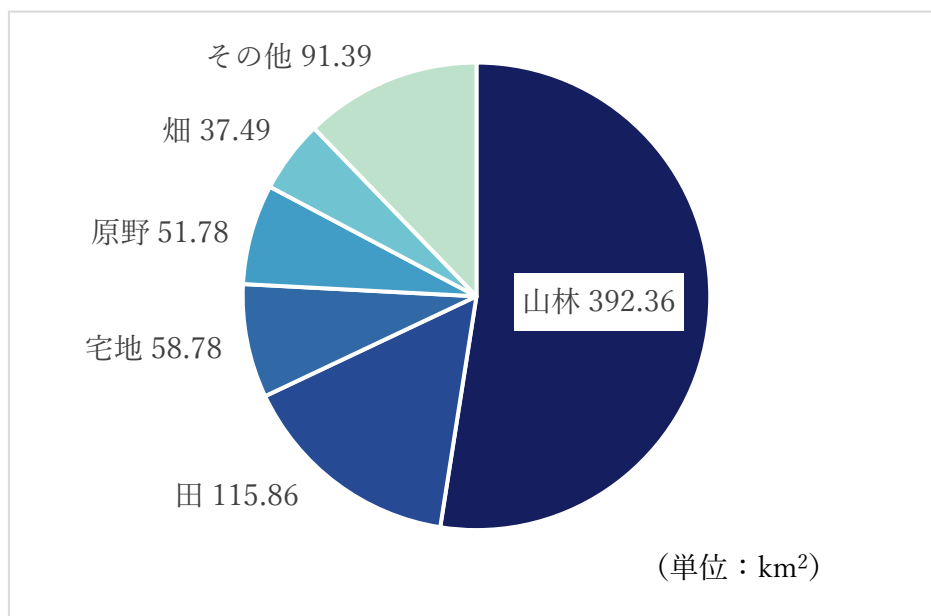


出典：旭川地方気象台データから作成

図 10 月別平年値（1991年～2020年の平年値）（降雪量）

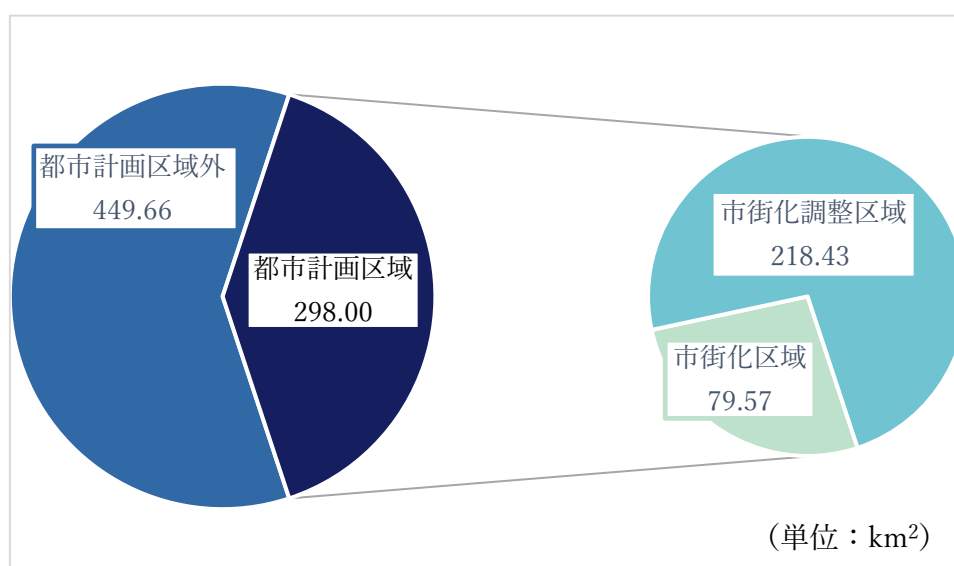
## (2) 土地利用

市域面積 747.66 平方キロメートルのうち、山林、田、畑、原野等の自然的な土地利用が 80% 以上を占め、宅地が占める割合は 8%程度となっています。



出典：旭川市環境白書(令和 4 年度版)から作成

図 11 土地利用の状況

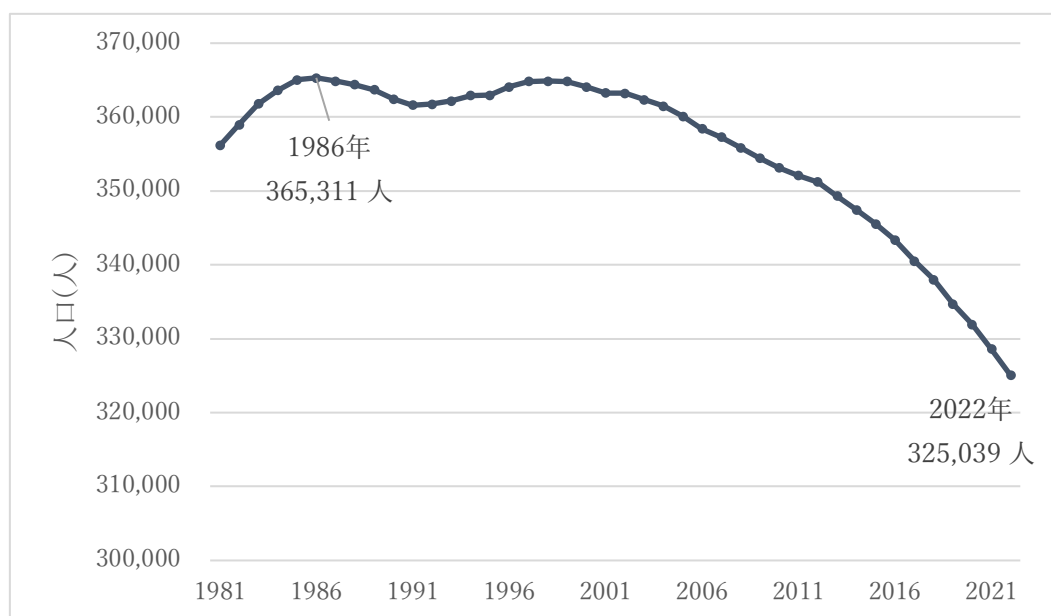


出典：旭川市ウェブサイトから作成

図 12 都市計画区域の面積

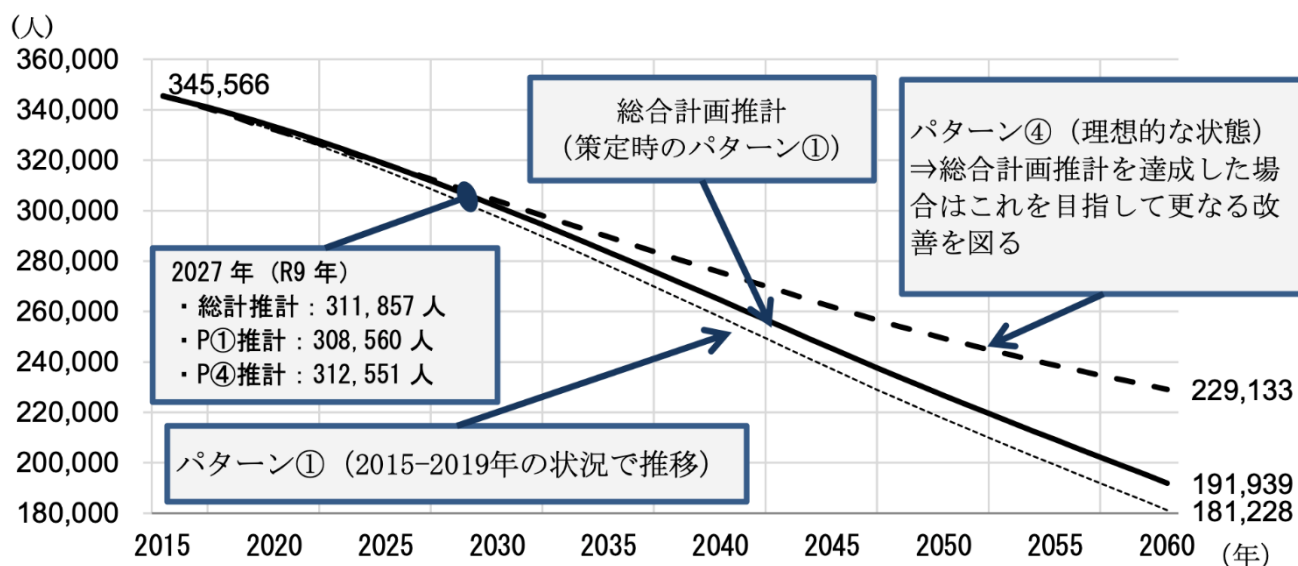
### (3) 人口

本市の人口は、1986年の365,311人をピークに減少傾向が続き、2022年は、325,039人となっており、将来的にも減少傾向が続くことが予測されています。



出典：令和4年度版旭川市統計書から作成

図 13 人口推移 (1981年～2022年)



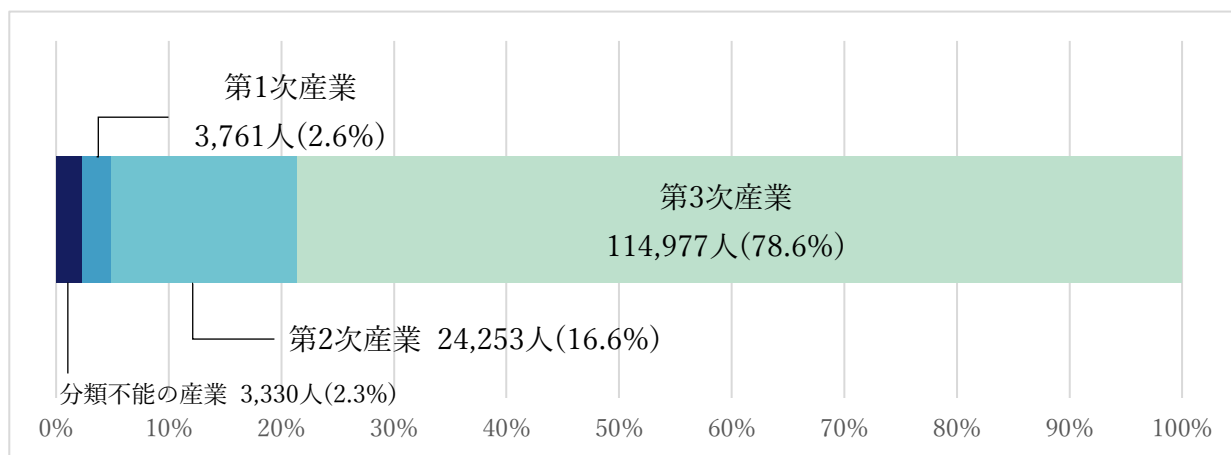
出典：旭川市人口ビジョン【改定版】

図 14 将来人口展望 (2015年～2060年)

## (4) 産業

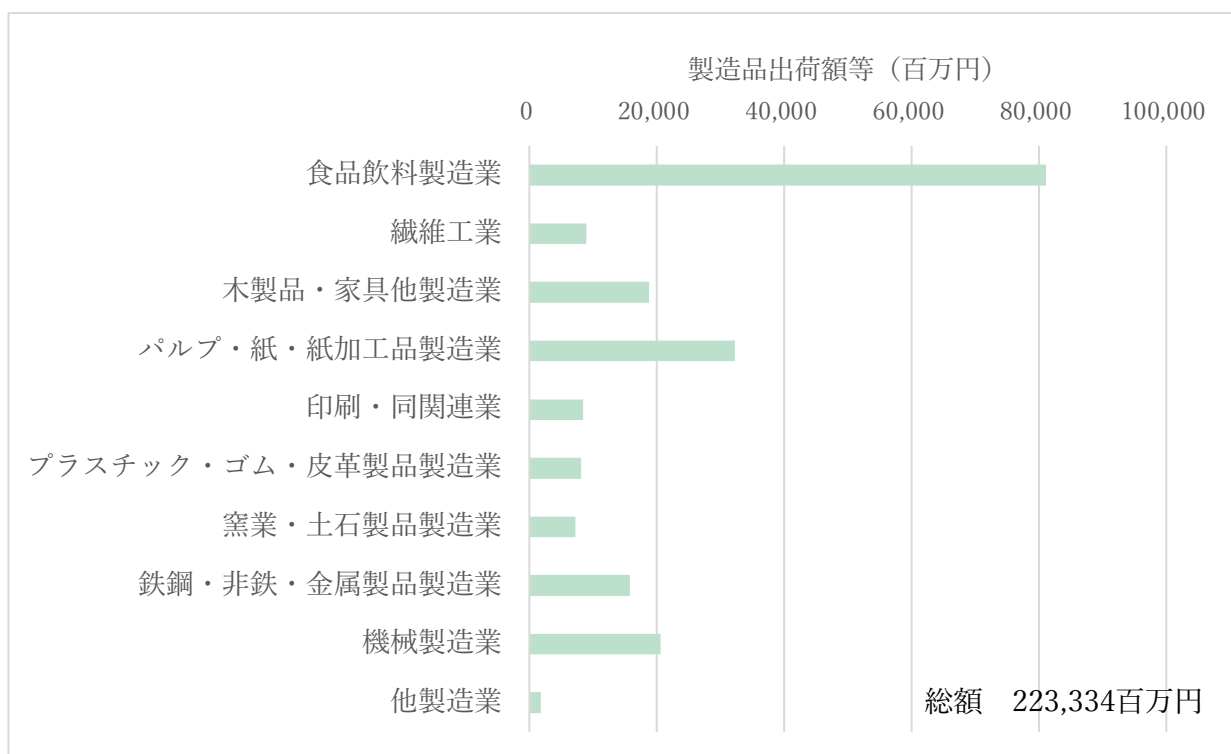
本市の産業は、我が国の食糧供給に重要な役割を担う稲作などの農業や食料品、紙パルプなどの製造業、旭川家具をはじめとした木工、機械金属などのものづくり産業が集積しているほか、北北海道の交通・物流の拠点として卸・小売業、サービス業などが発展しています。

産業別の就業者数の割合は、第1次産業が2.6%、第2次産業が16.6%、第3次産業が78.6%となっています。



出典：令和2年国勢調査から作成

図 15 産業別就業者数の割合



出典：2020年工業統計調査から作成

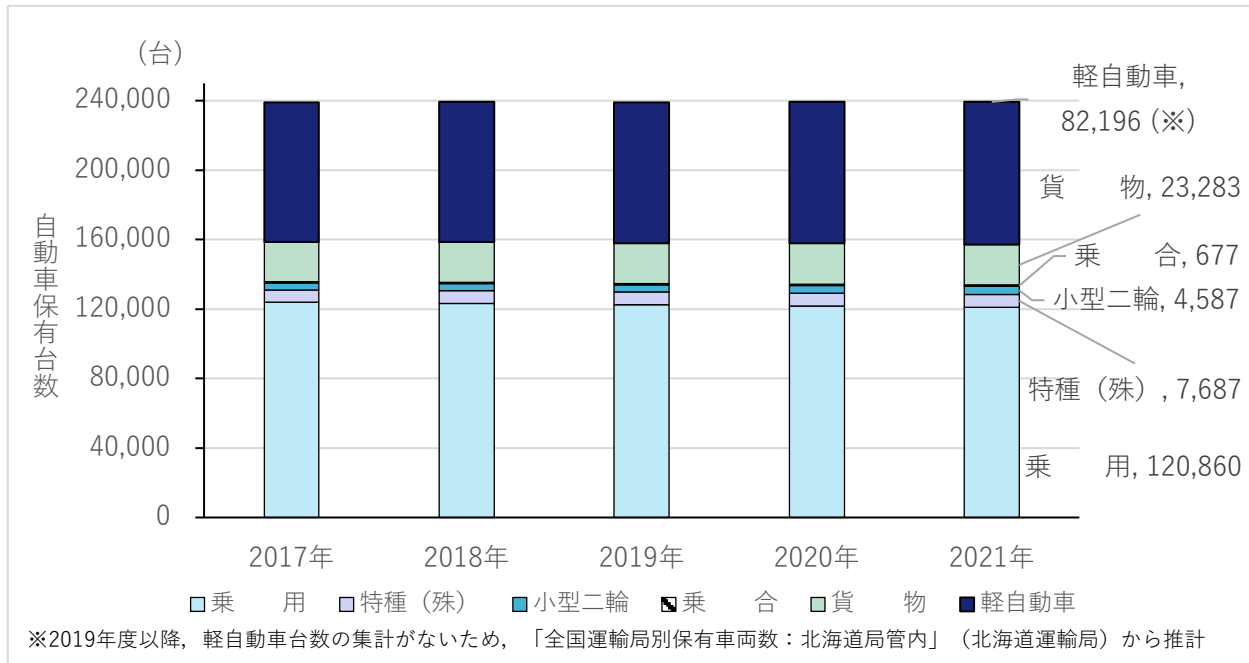
図 16 業種別製品出荷額

## (5) 交通

本市の自動車登録台数（軽自動車を除く。）は、2017年度から2021年度まで約16万台と、概ね横ばいの傾向です。内訳は、乗用車の割合が最も高く約8割を占めています。

軽自動車は、2019年度以降台数集計がありませんが、以前の傾向から約8万台程度で推移しているものと推計しています。

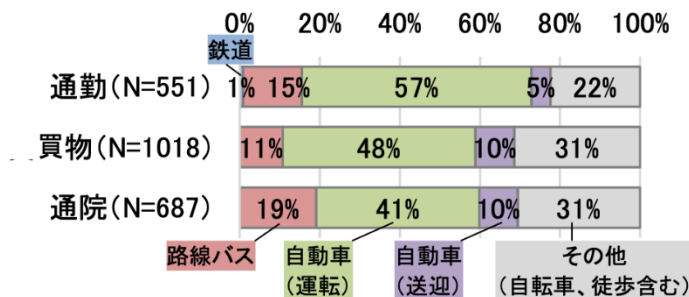
市民の日常的な移動手段としては、自動車の利用が最も多く、通勤で約6割を占めます。鉄道や路線バスといった公共交通機関の利用は1割から2割程度にとどまっていますが、通学にあっては、冬期の公共交通機関の利用が約4割を占めています。



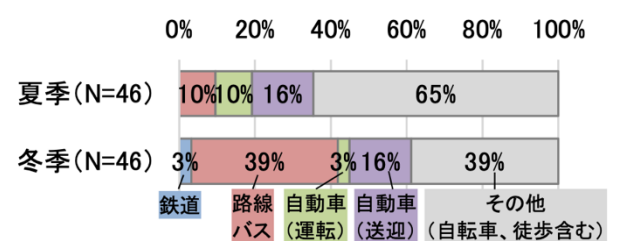
出典：令和4年度旭川市統計情報，北海道運輸局保有車両数年報から作成

図 17 自動車登録台数の推移

### ■通勤、買物、通院の移動手段



### ■通学の移動手段（夏季と冬季の比較）



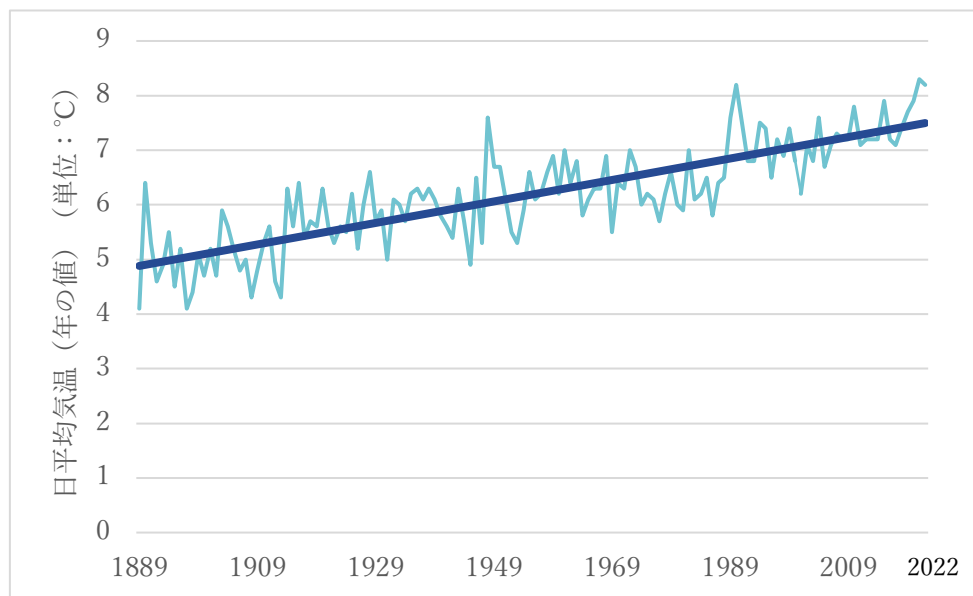
出典：旭川市地域公共交通網形成計画

図 18 目的別の移動手段

## 2 本市における気候変動の影響

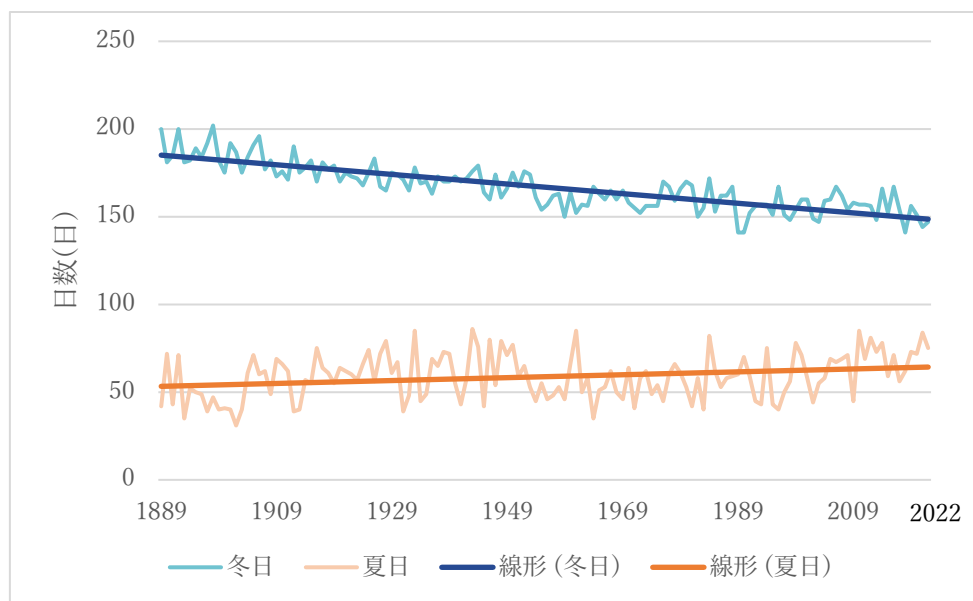
### (1) 気温の変化

気候変動の影響は本市においても確認されており、日平均気温がおよそ 2.7℃上昇し、夏日が 20 日増加している一方、冬日は 37 日減少しています（1889 年～1898 年と 2013 年～2022 年の平均値の比較）。



出典：旭川地方気象台データから作成

図 19 年平均気温推移（1889 年から 2022 年）



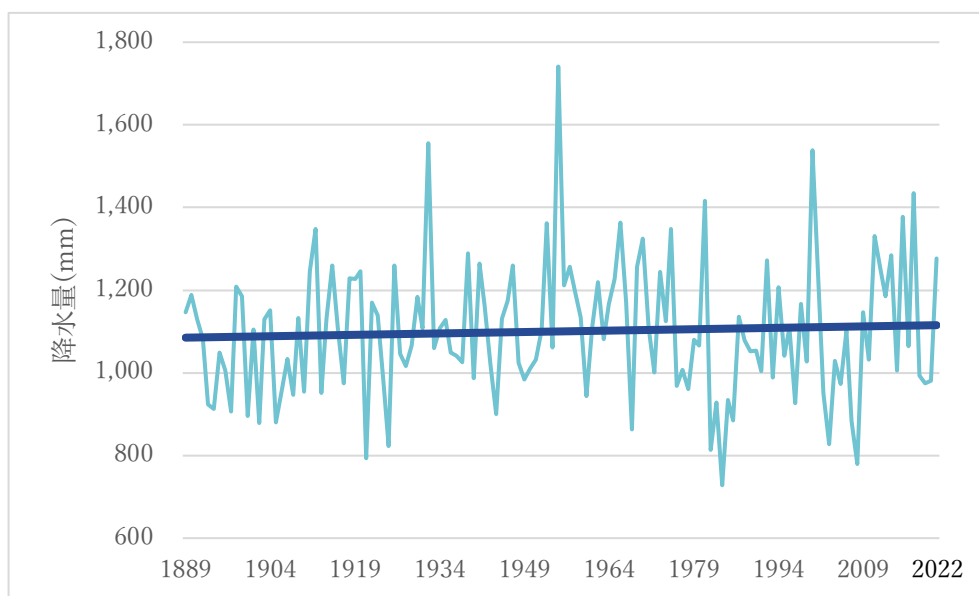
出典：旭川地方気象台データから作成

図 20 夏日・冬日の日数推移（1889 年から 2022 年）

## (2) 降水量・降雪量の変化

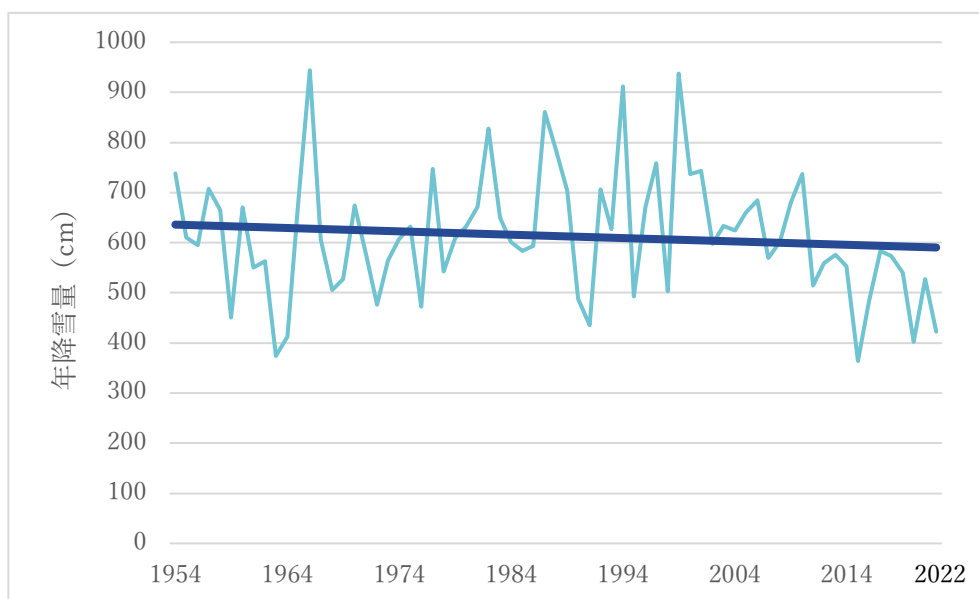
年降水量は、過去 100 年あたり約 22mm 増加しています（1889~1898 年の平均値と 2013~2022 年の平均値の比較）。

一方、年降雪量は 90cm 減少（1954~1963 年の平均値と 2013~2022 年の平均値の比較）しています。



出典：旭川地方気象台データから作成

図 21 年降水量推移（1889 年から 2022 年）



出典：旭川地方気象台データから作成

図 22 年降雪量推移（1954 年から 2022 年）



### 3 再生可能エネルギーの導入状況

#### (1) 再生可能エネルギーの導入容量

本市における再生可能エネルギーの固定価格買取制度（以下「FIT」という。）を活用した発電設備の導入容量は、2021年度時点で20,605kWとなっています。内訳は、太陽光発電設備（10kW以上）が7,753kW、太陽光発電設備（10kW未満）が12,851kWとなっており、いずれも増加傾向にあります。

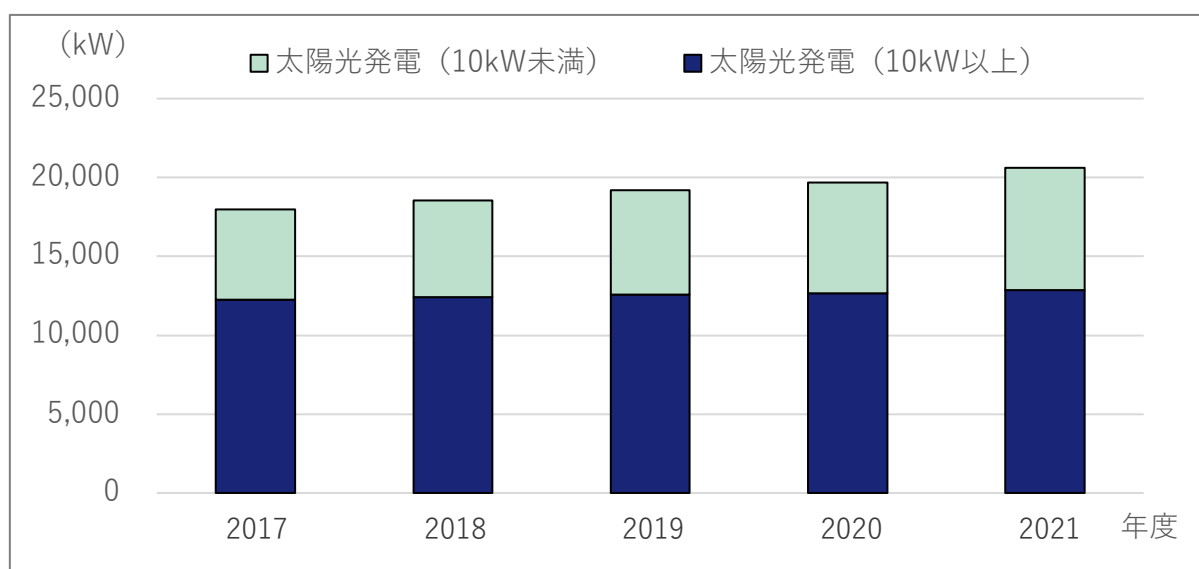
表 4 再生可能エネルギー設備容量の導入状況

（単位：kW）

再生可能 エネルギー設備	再生可能エネルギー設備容量の導入状況				
	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度
太陽光発電 (10kW未満)	5,724	6,139	6,650	7,051	7,753
太陽光発電 (10kW以上)	12,261	12,402	12,560	12,648	12,851
合計	17,985	18,541	19,210	19,699	20,605

※単位未満四捨五入のため、合計が一致しない場合がある。

出典：自治体排出量カルテ（環境省）から作成



出典：自治体排出量カルテ（環境省）から作成

図 23 再生可能エネルギー設備容量の導入状況の経年変化

## (2) 再生可能エネルギーによる発電電力量

本市における再生可能エネルギーの発電電力量は、2021年度で26,304MWhとなっています。内訳は、太陽光発電設備（10kW以上）が16,999MWh、太陽光発電設備（10kW未満）が9,305MWhとなっており、前項の導入容量の増加に比例して、発電電力量も増加傾向にあります。

表 5 再生可能エネルギーによる発電電力量

(単位：MWh)

再生可能 エネルギー設備	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
太陽光発電 (10kW未満)	6,870	7,368	7,981	8,463	9,305
太陽光発電 (10kW以上)	16,218	16,405	16,613	16,730	16,999
合計	23,088	23,772	24,595	25,192	26,304
市の電気使用量	1,731,771	1,729,356	1,729,422	1,685,573	1,685,573
対消費電力 FIT 導入	1.3%	1.4%	1.4%	1.5%	1.6%

※単位未満四捨五入のため、合計が一致しない場合がある。

出典：自治体排出量カルテ（環境省）から作成